

びわ湖ホール25周年に寄せて

柿落し公演『ドン・カルロ』から続く、劇場で丁寧に仕上げるプロダクションという伝統精緻な表情をオーケストラから引き出す
阪 哲朗・芸術監督の『ばらの騎士』への期待

音楽評論家 東条碩夫

「京都から琵琶湖線っての乗り換えてさ、たったの2駅よ。その大津の駅からすぐなんだからさ、ぜったい来てるよ。」

あの若杉弘さん(初代芸術監督)からそう言われて、それまでびわ湖ホールがどこにあるのか、「琵琶湖」というとつもなく大きな湖から想像するに、電車も乗り継ぎ乗り換えしなくては行けないのではないか、などと方向音痴の極みだった私が、柿落し公演『ドン・カルロ』に参上して以降、毎年、それも年に2回も3回もこのホールに伺うことになるとは、その時は予想もしていなかった。

沼尻竜典・第2代芸術監督時代になると演目もいよいよ多彩になり、楽しみは尽きなかった。強い印象を与えられ、記憶に残った上演も多い。たとえば、後期ロマン派レパートリーにおける沼尻さんの進境を知って嬉しくなったR.シュトラウスの『ばらの騎士』、親子断絶の家庭内悲劇を描いたカロリーネ・グルーバーの奇抜な演出『サロメ』、ロボットが働く巨大工場を舞台にした粟國淳演出『トゥーランドット』、プロジェクト・マッピング(映像)の威力を発揮したハンベ演出『さまよえるオランダ人』、クラシック音楽界に同時生中継のネット配信の意義を知らしめた『神々

の黄昏』など——枚挙にいとまがない。

そしてまた私にとっては、2010年代に入ってから毎年オペラ講座まで担当させていただくことになったのは、大きな喜びだった。早春の「プロデュースオペラ」上演作品についての「入門講座」である。その最初は、2014年のコルンゴルトの『死の都』の時だったが、たしかあの講座の当日は、雪の降るたいへん寒い日だった。こんな交通事情では聴講の人も来ないだろう、せいぜい20人くらいがいいところではないのか、と思っていたら、なんと100人近い方が顔を揃えておられたには仰天した。東京と違い、こちらの方たちは熱心なのだなあ、とつくづく感じ入った次第だった。以来、コロナ前の時期には定員120席満席だと、最近では3日間で申込完売とか、いろいろ有難い話をホールから聞かされ、ひたすら感激、という状態なのである。

いま、びわ湖ホールは、阪哲朗・第3代芸術監督の時代に入った。すでに『フィガロの結婚』や『こうもり』での成功をご承知の方も多かろう。綿密に準備し、丁寧に仕上げたプロダクションで、彼がいかに精緻な表情の音楽をオーケストラから引き出すかは、実証済みである。3月の大作『ばらの騎士』に満腔の期待が集まる。



1999年『ドン・カルロ』
(演出:鈴木敬介、指揮:若杉弘、京都市交響楽団)



2014年『死の都』
(演出:栗山昌良、指揮:沼尻竜典、京都市交響楽団)

滋賀県立芸術劇場

びわ湖ホール



びわ湖芸術文化財団・舞台芸術情報誌

2023.Winter

NO.

Contents

- プロデュースオペラ『ばらの騎士』 P2・3
- 開館25周年記念行事 P4・5
- びわ湖ホール声楽アンサンブル・ニュース P6
- 公演レビュー『こうもり』『フィガロの結婚』 P7
- 2024年冬公演 Pick up!! P8
- びわ湖ホールからのお知らせ P9
- えいじやに・滋賀県立文化産業交流会館より P10・11
- びわ湖ホール25周年に寄せて P12

滋賀県立芸術劇場

びわ湖ホール

チケットInformation



インターネット予約 <https://www.biwako-hall.or.jp/>

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜15番1号
TEL077-523-7133 FAX.077-523-7147
<https://www.biwako-hall.or.jp/>

検索



電話予約 チケットセンター



窓口販売

2階チケットセンター

10:00~19:00/火曜休館 ※休日の場合は翌日、12/29、30、1/1~3は休館。ただし、チケットセンターは12/30は電話受付のみ、12/31は10:00~17:30営業。

※チケット料金は消費税込の価格を表示。※()内は友の会会員料金。※一部公演を除き全席指定。※一部公演を除き6歳以上入場可。

【青少年割引当日券の販売】青少年割引当日券がある公演は、公演当日に残席がある場合に限り、青少年(24歳以下)の方に、半額で当日券を発売いたします。SS~E席のみ。U30・U24席は除く。※劇場窓口のみ取扱い。学生証など年齢のわかるものを提示ください。

【シニアメイツ優待公演】シニアメイツチケットはびわ湖ホールチケットセンターのみの取扱い(電話・窓口のみ)。



アクセス

大阪から新快速で約40分、京都から約10分 名古屋から新幹線／京都駅のりかえで約60分

●JR琵琶湖線(東海道本線)「大津」駅より徒歩約20分、またはバス「湖岸線」約5分(大津商工会議所前下車、徒歩約4分)

●JR琵琶湖線(東海道本線)「膳所」駅より徒歩約15分、または京阪電車のりかえ「石場」駅より徒歩約3分

《駐車場のご案内》有料849台 24時間営業 料金: 7:00~23:00 1時間毎210円(4時間経過後1時間毎110円)
23:00~ 7:00 1時間毎110円(時間内最大料金420円)

滋賀県立文化産業交流会館

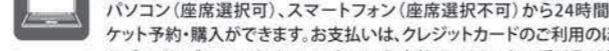
Shiga Theatre for Cultural and Industrial Development

〒521-0016 滋賀県米原市下多良2-137

TEL.0749-52-5111 FAX.0749-52-5119 <https://www.s-bunsan.jp/>

文産 検索

チケットInformation



インターネット予約 <https://biwako-arts.tstar.jp/>

パソコン(座席選択可)、スマートフォン(座席選択不可)から24時間いつでもチケット予約・購入ができます。お支払いは、クレジットカードのご利用のほか、全国のセブンイレブン・ファミリーマートでのお支払い・チケットの受け取りも可能です。(一部公演・席種を除く)

【利用方法】①チケット予約・購入 ②チケットの受取(会館窓口 or セブンイレブン・ファミリーマート)

※お支払い・チケットの受取方法をお選びいただき、期日までにお手続きください。お支払い・チケットの受取方法により、代金の他に手数料がかかります。

電話予約・窓口販売 直接、下記までお問い合わせください。

滋賀県立文化産業交流会館 TEL.0749(52)5111

※月曜休館。月曜日が休日の場合はその翌日で休日でない日。年末年始(12月29日~1月3日)



《アクセス》(電車でお越しの方)

JR新幹線・琵琶湖線・東海道本線・北陸本線 米原駅西口より徒歩7分

(お車でお越しの方)

北陸自動車道米原インターチェンジより約10分、または名神高速道路彦根インターチェンジより約15分

《駐車場のご案内》有料360台(無料)



35th
Biwako Hall
Anniversary

2023年11月

共同制作オペラ J.シュトラウスⅡ世作曲『こうもり』 c栗山主税

びわ湖ホール プロデュースオペラ リヒャルト・シュトラウス作曲

ばらの騎士

19世紀末、豊饒のウィーンを舞台とした
R.シュトラウスの傑作。同地を音楽キャリアの
原点とし、同地の音楽のエッセンスを学んだ
阪 哲朗が『ばらの騎士』の世界へ皆様を誘います。

『ばらの騎士』とは

R.シュトラウスと文豪ホフマンスターの名コンビ(他に『エレクトラ』、『影のない女』、『ナクソス島のアリアドネ』、『アラベラ』などがある)による、マリア・テレジア時代を再構成した傑作。モーツアルトの『フィガロの結婚』への回帰を目指して書いた作品です。ハンガリー=オーストリア帝国の「佳き時代」に憧れる民衆へ向けた、ヨハン・シュトラウス一家のフルツと華やかで典雅な音楽が全体を彩り、音楽史上に燐然と輝くオペラ作品です。

あらすじ

舞台はウィーン。朝、元帥夫人は夫の留守中に若き愛人の伯爵オクタヴィアンと逢瀬の余韻を楽しんでいたが、そこに好色で欲深い地方貴族オックス男爵が現れる。彼は、裕福な新興貴族ファーニナルの一人娘ゾフィーと結婚することになり、婚約の申し込みの使者「ばらの騎士」の人選を従兄妹である元帥夫人に相談する。

選任されたオクタヴィアンはファーニナル家に出向き、習わしに従って銀のばらをゾフィーに手渡すが、互いに一目ぼれする。オックス男爵のゾフィーへの無作法な振る舞いに憤慨したオクタヴィアンは一計を案じ、仲間たちと罠を仕掛け、罠にはまつた男爵は退散。

元帥夫人はオクタヴィアンとゾフィーの若い2人の恋を成就させるために、身を引く。

びわ湖ホール プロデュースオペラ
R.シュトラウス作曲『ばらの騎士』

2024年3月2日(土)・3日(日) 両日とも14:00開演【大ホール】

指揮：阪 哲朗 (びわ湖ホール芸術監督)

演出：中村敬一

管弦楽：京都市交響楽団

合唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル

児童合唱：大津児童合唱団

SS席22,000(20,900)円 S席19,800(18,700)円 A席16,500(15,400)円

B席14,300(13,200)円 C席11,000円 D席8,800円 E席5,500円

U30席(30歳以下)3,300円 U24席(24歳以下)2,200円 SS.D.E席は取扱い終了

2公演セット券(S席)35,200(33,000)円 チケット好評発売中 青少年割引当日券あり

新制作



ドイツ語上演・日本語字幕付



バスブルク帝国の栄華を象徴するウィーンのシェーンブルン宮殿の中にある「鏡の間」
ここを舞台セットのモチーフにした『ばらの騎士』の舞台装置も多い



指揮
阪 哲朗



演出
中村敬一



びわ湖ホールが総力を挙げて制作する『ばらの騎士』。
日本のオペラ界に新たな歴史を刻む公演となるに違いない
寺西基之(音楽評論家)



新芸術監督・阪哲朗のもとで新たな時代をスタートさせたびわ湖ホール。同ホールが年間で最も重きを置いているのが“プロデュースオペラ”だが、今年度の演目として阪が選んだのがR.シュトラウスの『ばらの騎士』である。ウィーンに学んだ阪は、芸術監督一年目の今年度、モーツアルトの『フィガロの結婚』、J.シュトラウスII世の『こうもり』といったウィーンゆかりの作品(『フィガロ』は物語の舞台こそスペインだが)を取り上げ、独自色を打ち出した。その締めくくりとして『ばらの騎士』ほどふさわしい作品はないだろう。

このオペラの舞台は18世紀ウィーンの貴族社会。この作品でR.シュトラウスと台本作者ホフマンスターが意図したのは『フィガロの結婚』の精神を現代に蘇らせることだったが、そこには『こうもり』にみられる19世紀のウィンナ・ワルツも持ち込まれ、さらにそれらがR.シュトラウスの時代の世纪末的な官能性やデカダンスの漂う音調のうちに受け合われている。その意味で『ばらの騎士』は18世紀から20世紀初めまでのウィーンのエッセンスが統合された作品だといってよい。

『ばらの騎士』のこうした特質、美質をウィーン仕込みの阪のタクトは余すところなく引き出してくれるだろう。先日の『フィガロ』の公演でも、流麗かつ優美な運びの中で生き生きと人物たちの駆け引きを表わし出す音楽作りに、いかにもウィーンのスピリットを感じさせた彼が、『ばらの騎士』の持つウィーンの空気感、その中の恋模様をいかに表現してくれるのか、楽しみでならない。

このオペラは主役たちの微妙な心と感情の動きの描出が重要で、歌手たちがいかに登場人物の性格表現を作り上げていくかが大きなポイントとなるが、今回のキャストの人選はその点をわめて強力で、わが国を代表するブリマドンナ森谷真理をはじめとして、日本のオペラ界の第一線や外国で活躍する歌手たちを中心に、まさに適材適所の配役がなされている。各役の心の内面とともに、人物どうしのいろいろな絡みを彼らがどう表してくれるのか大いに期待したい。

このベテラン中心の主役たちに混じってひとときわ目を引くのが、びわ湖ホール声楽アンサンブルのソロ登録メンバーである山際きみ佳の抜擢だろう。先日の『フィガロ』のケルビーノ役でフレッシュな歌唱と演技を披露した彼女が、やはりズボン役であるオクタヴィアンをどう演じるか注目される。

彼女だけでなく、今回の“プロデュースオペラ”ではびわ湖ホール声楽アンサンブル出身の歌手たちが脇役(といっても重要な役ばかり)にも多数起用されている。オペラ・ハウスの中核を担うプロフェッショナルな声楽家団体としてびわ湖ホールが育成してきたこのアンサンブルがいかに優れた人材を生んできたか、この公演はその成果を示すものとなるだろう。

まさにびわ湖ホールが総力を挙げて制作する『ばらの騎士』。日本のオペラ界に新たな歴史を刻む公演となるに違いない。

『ばらの騎士』をより深く楽しむために

●岡田暁生『ばらの騎士』セミナー(上級編/全2回)

上演に先立ち、公演をより楽しむための方、オペラ上級者の方におすすめの講座を開催します。映像や音楽を交えながら、本公演を存分に予習していただけます。

第1回/2024年1月13日(土) 14:00~16:00
第2回/2024年1月27日(土) 14:00~16:00

講師:岡田暁生(京都大学人文科学研究所教授) 会場:コラボしが21 3階大会議室
全2回通し券:2,200円 1回券(当日残席がある場合のみ販売):1,650円(自由席)

●オペラ講座『ばらの騎士』(初級編/全2回)

映像や音楽を交えながら、本公演を存分に予習していただけます。

第1回/2024年1月7日(日) 14:30~16:30
第2回/2024年1月21日(日) 15:20~16:50(休憩なし)

講師:東条碩夫(音楽評論家)
会場:コラボしが21 3階大会議室
全2回通し券:2,200円
1回券(当日残席がある場合のみ販売):1,650円(自由席)

●オペラ・ワークショップ

本番を控えた会場で、今回の演出などについてお話をします。

2024年3月3日(日) 10:15~[大ホール]

出演:中村敬一(演出家)ほか

参加料:1,000円(『ばらの騎士』の公演チケット提示の方は無料)

気軽にクラシック38 ソプラノ吉川日奈子が贈る 「3拍子アリアの魅力」

びわ湖リング『ジークフリート』森の小鳥、『神々の黄昏』ヴォーグリンデを好演。ハノーファー州立歌劇場、ニュルンベルク歌劇場などでも活躍したブリマ。『ばらの騎士』ではソフィー役で出演(3月3日)、びわ湖ホールのみの特別な1時間のコンサートです。

出演:吉川日奈子(ソプラノ)

湯浅加奈子(ピアノ)

[曲目]R.シュトラウス:「明日」op.27 no.4

モーツアルト:歌劇『フィガロの結婚』より

「早くおいで、素晴らしい喜びよ」

ブッchner:歌劇『ラ・ボエーム』より「私が街を歩けば」 ほか

2024年2月18日(日) 14:00開演【小ホール】

一般1,100円 チケット好評発売中



吉川日奈子



記念コンサートを行いました

1998年9月5日に開館した滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールは、2023年で開館25周年を迎えました。これまでおよそ570万人の方々にご来場いただき、貸館事業も含めた総公演数は8,500を超えるまでとなりました。

25周年を記念していくつかのコンサートを行いました。

開館25周年記念 オペラ ガラ・コンサート

9月17日(日) [大ホール]



日本を代表する歌手とびわ湖ホール声楽アンサンブル、京都市交響楽団が祝祭ムードを盛り上げました



ワーグナーシリーズの完結となる『ニュルンベルクのマイスター』で主人公のハンス・ザックスを歌った青山貴がこの日も堂々たるザックスを歌いました



『ばらの騎士』の終幕の三重唱のオクタヴィアン役に挑戦した藤木大地(左)とゾフィー役の石橋栄実(右)



記念タペストリー

25周年を記念したタペストリーがメインロビーに飾されました。

また、びわ湖ホール声楽アンサンブルからは、船越亜弥、山本康寛、市川敏雅もソリストとして会場を盛り上げました。

ワーグナーとヴェルディのオペラ作品、今年度のラインナップからJ.シュトラウスⅡ世『こうもり』、モーツアルト『フィガロの結婚』、2024年3月に上演するR.シュトラウス『ばらの騎士』などのオペラから名場面が演奏され、観客は25年を経たびわ湖ホールの「今」を満喫しました。



ワーグナーシリーズの完結となる『ニュルンベルクのマイスター』で主人公のハンス・ザックスを歌った青山貴がこの日も堂々たるザックスを歌いました



『ばらの騎士』の終幕の三重唱のオクタヴィアン役に挑戦した藤木大地(左)とゾフィー役の石橋栄実(右)

びわ湖ホール開館25周年記念 ポスター展

9月13日(水)～10月16日(月)



展示に見入る方々

びわ湖ホールは開館以来、「創造する劇場」を標ぼうし、自主制作にこだわり、オペラをはじめとするさまざまな舞台芸術を国内外に発信しています。

今回のポスター展では、これまでの自主制作作品の中から、日本最高水準の力を結集した『プロデュースオペラ』とびわ湖ホール声楽アンサンブルがキャストを務める『オペラへの招待』の公演ポスターを展示しました。

「これ、見た。こんなに前だったんですね」、「こんなにたくさん(上演)していたんだ」など、さまざまな思いを胸に多くの方にご覧いただきました。

名曲コンサート田村 韶ピアノ・リサイタル

9月3日(日) [大ホール]

2007年のロン・ティボー国際コンクールで1位を獲得、内外で充実した活動を続ける田村 韶のリサイタルを大ホールで開催。25周年記念事業の一環として、若い方に本物の音楽を体験していただきたいと、シアターメイツの会員を無料招待しました。※シアターメイツ詳細は9ページ参照。

田村はベートーヴェンのピアノ・ソナタ第23番「熱情」、ショパンの華麗なる大円舞曲、ドビュッシーの「月の光」など本格的な名曲や親しみやすい曲を配した演奏を行いました。

アンケートでは「大きな音でびっくりした」、「ピアノを弾きたくなりました」などの感想が寄せられました。



25周年を寿ぐ公演

野村万作・野村萬斎狂言公演

2024年3月20日(水・祝) 13:00/17:00開演
[中ホール]

[演目]三番叟 (13:00 野村裕基/17:00 野村萬斎)
末広かり (13:00/17:00 野村万作)
S席6,600(6,050)円 A席5,500(4,950)円
青少年(24歳以下)3,300円 シニアメイツ1,650円

チケット好評発売中



野村萬斎さんからのメッセージ

25周年に三代できることはうれしく、ありがたいことです。

びわ湖ホールとの御縁は、開館の時に「三番叟」をさせていただいたのが最初です。大津市という中規模都市にありながら、これだけ芸術に力を入れていることは珍しいと思います。25年の間、芸術を絶え間なく追求して、大型の公演もできるということは、皆さんの努力の結晶であると思い、お喜び申し上げます。

●三代での出演について

裕基は、プロの狂言師として、勉強しながらも舞台でいろいろ覚えている最中です。世阿弥がいう「時分の花」という、若いなりのエネルギーの発散が今一番美しい時です。

私は50代という気力、体力、実力が一番充実している時期でありたいと思っていますが、そういうことで裕基と萬斎の「三番叟」を昼夜見比べていただければと思います。

「末広かり」に関していえば、父がこのたび文化勲章の栄に浴しましたが、20代、50代の芸が長く続けるとここまで型や様式というものから解き放たれて自由になり、芸境、芸域に達する芸の変遷を目の当たりにしていただけます。

それも狂言三代揃っている時でないとできませんし、芸術・芸能というのは、継承していくもので、点でなく線になることが大事だということです。私どもも代々やっているわけですが狂言の長い歴史のなかでは一部です。

びわ湖ホールもそれぞれの公演は、点かもしれませんのが、25年続けたことが線となり、それが100年、200年と続くようにと願います。25周年に三代できることをこのうえなくうれしく、ありがとうございます。

●三番叟と「MANSAIボレロ」

開館15周年に沼尻(竜典・びわ湖ホール前芸術監督)さんの指揮で「MANSAIボレロ」をやりました。繰り返すメロディがらせん状に高まって、一種のエクスタシー状態を作り上げる、まさに「三番叟」と同じ構造を持っています。

恐らくモーリス・ペジャールが、「ボレロ」の振り付けをするときに、「三番叟」などを参考にしたのではないかという気もします。人間がある種、美意識を感じたり気持ちよくなるということは、ジャンルが違ってどこか共通点があると思いますし、そういう意味での根源的なものをこの「三番叟」から感じていただければ、ありがたいと思っております。

歴代館長座談会

25周年だよ! 歴代館長 全員集合

9月16日(土) [大ホール・ホワイエ]

びわ湖ホール劇場サポーターの基礎講座として、歴代館長による開館25周年を記念した座談会を行いました。出席は、第2代館長・上原恵美、第3代館長・井上建夫、第4代館長・山中 隆の3氏と、司会進行を第5代の現館長・村田和彦が務めました。

座談会では、びわ湖ホール開館準備局長だった上原氏が、オペラや音楽などに造詣の深い赤松良子氏に初代館長への就任を依頼したこと、初代芸術監督の若杉 弘とともにびわ湖ホールの基礎を築いたこと、びわ湖ホールの知名度と認知度を上げる取り組みとともにオペラやバレエなど、舞台芸術の普及に努めた黎明期の話が披露されました。

さらに、劇場を応援する人々の必要性を感じ、ワールドカップのサポーターからヒントを得て「劇場サポーター」を互いの顔が見える規模として30名で発足させたことも話しました。

他にも、サポーターの活躍やびわ湖ホールと文化産業交流会館との連携、他のホールとの協力、経済界からの支援など、25周年に至る貴重な話が披露され、びわ湖ホールのこれまでとこれからを考える機会となりました。



びわ湖ホール大ホールホワイエでの座談会
左より 村田、山中、井上、上原

オペラ『泣いた赤おに』巡回公演を行いました

毎年、行っているオペラ『泣いた赤おに』の巡回公演。2023年は9月12日から11月14日まで県内外10の小学校と3つのホールを巡回し、約4千人の子どもたちに本格的な舞台をお届けしました。

この巡回公演には、歌手・ピアノ・打楽器・指揮者の計11人の出演者のほかに、照明や大道具など最大16人のスタッフが携わっています。小学校で上演するときには、照明機材や舞台装置を運び込み、体育館をオペラハウスのようにしつらえました。

2019年に新制作した中村敬一の演出で、体育館の入り口には鬼の口をかたどった門を設置し、オペラの物語の世界へ子どもたちを誘いました。オペラの中には歌手の導きで「手遊び歌」を子どもたちが歌って、家の中で寝ている赤おにを起こす場面もあり、オペラに参加してもらうことで、より舞台芸術の魅力を知ってもらう工夫も行いました。



小学校での公演の様子



体育館の入り口に設置された鬼のアーチ

「美しい日本の歌」県外を含め新たに2公演行いました

8月5日のびわ湖ホール、12日の滋賀県立文化産業交流会館の公演に加え、11月3日に兵庫県立芸術文化センターで、11月4日には甲西文化ホールで「美しい日本の歌」の公演が行われました。(全4公演)

兵庫公演は2021年に続いて2回目で、前回はピアノ伴奏でしたが、今回はびわ湖ホール、滋賀県立文化産業交流会館と同じ、京都フィルハーモニー室内合奏団が演奏、迫力ある舞台となりました。また、湖南省の甲西文化ホールでは、びわ湖ホール四大テノール、BS朝日「子供たちに残したい 美しい日本のうた」などでおなじみの植松さやかのピアノ演奏となりました。

今年度は4公演になり、びわ湖ホールの名物企画として広がり続けています。



市川敏雅(バリトン)
第92回日本音楽コンクール
声楽部門で入選!



市川敏雅が、若手演奏家が競う日本最高峰の「日本音楽コンクール」の声楽部門(本年度はオペラ・アリア)で見事入選。

市川は「本番では、びわ湖ホールで多くのオペラの舞台に立たせていただいた経験を思い出しながら歌うことができ、声楽アンサンブル・メンバーとしての活動が、どれほど自分にとってありがたいことを改めて実感しました。日頃応援してくださっている皆さまに感謝申し上げます。これからも自身の声の可能性を信じ、更なる高みを目指して精進してまいりますので、よろしくお願いします。」と話しました。

25周年記念にふさわしいプログラムで定期公演、東京公演を行います

『The オペラ!』

びわ湖ホール声楽アンサンブルのメンバーが様々なジャンルの声楽曲をお贈りする定期公演。同じプログラムを東京でも開催しています。

今回は声楽家が厚い信頼を寄せるビアニスト、河原忠之による弾き振りで、前半はヴェルディ作曲の「レクイエム」、後半はブリテン作曲のオペラ『ちいさな煙突そうじ屋さん』を演奏会形式でお贈りします。

『ちいさな煙突そうじ屋さん』はびわ湖ホール開館時から始まった「青少年オペラ劇場(現・オペラへの招待)」シリーズの初回で、初代芸術監督 若杉 弘がこの作品を選択、エリック・クロジャーの英語の台本を若杉自身の翻訳と訳詞で日本語上演を行いました。

びわ湖ホール開館25周年に合わせて、初演時から演出を手がけている中村敬一が構成を担当します。

びわ湖ホール声楽アンサンブル

『The オペラ!』

河原忠之(指揮・ピアノ)
びわ湖ホール声楽アンサンブル
中村敬一(構成)

[曲目]
ヴェルディ: レクイエム
ブリテン: オペラ『小さな煙突
そうじ屋さん』
(演奏会形式/日本語上演)



●第78回定期公演
2024年3月23日(土)
14:00開演 びわ湖ホール [小ホール]
一般3,300(2,750)円
青少年(24歳以下)1,650円

●東京公演vol.14
2024年3月24日(日)
14:00開演 東京文化会館[小ホール]
一般4,400(3,850)円
青少年(24歳以下)2,750円

全国共同制作オペラ

J.シュトラウスⅡ世作曲『こうもり』 11月19日(日) [大ホール]



終演後のカーテンコールに登場した、左より野村萬斎、阪 哲朗、桂 米團治、晴 雅彦(プリント役)



アイゼンシュタインの屋敷も暖簾のある和の空間に左よりファルケ、ロザリンデ、アイゼンシュタイン
2幕の終わり「こうもりの復讐」は成功裏に終わるファルケ博士、前左より、アーデ、オルロフスキ、ロザリンデ、イーダ。
中段の黒幕を持つびわ湖ホール声楽アンサンブルメンバー



オルロフスキ公爵は王子の設定
カウンターテナー藤木大地の見事な歌唱に会場は沸く



3幕、ロザリンデがアイゼンシュタインに正体を明かす場面。刑務所も歌舞伎舞台などの牢屋の格子となっている。

野村萬斎の和の演出が豪華歌手陣の魅力を引き出した上演

狂言師の野村萬斎が初めてのオペラ(オペレッタ)演出に挑んだJ.シュトラウスⅡ世の『こうもり』の上演を11月19日に行いました。

野村萬斎の演出によって、福井 敬(アイゼンシュタイン)、森谷真理(ロザリンデ)、藤木大地(オルロフスキ公爵)、大西宇宙(ファルケ博士)、幸田浩子(アーデー)、晴 雅彦(プリント博士)など日本を代表する歌手が出演しました。

指揮は、ウィーンの名門フォルクスオーパーで大晦日の特別公演の『こうもり』を指揮した経験を持つびわ湖ホール芸術監督の阪 哲朗、演奏は日本センチュリー交響楽団、合唱はびわ湖ホール声楽アンサンブルが務めました。

演出の野村萬斎は公演を翌日に控えて、「初めて見る方にも喜んでいただけ、かつ、いままで見ていている方にもちょっと見たこともないような形ということで、やらせていただきました。そういう実験的な取り組みは芸術にとっては大事なことだと思います」と演出の意図を話しました。

開演してすぐに、序曲ではなく桂 米團治の口上から始まり、その中で「オペラとオペレッタ」と「能と狂言」という対比には共通するところがあり、それがせりふの存在だと明らかにし、自ら原作をもとに時事ネタなどを取り込んだ洒脱な台本をつくり、歌手たちも見事な所作と歌で応えた上演となりました。聴衆も笑いと大きな拍手で応えました。

11月25日に東京芸術劇場、12月17日にはやまぎん県民ホール(山形)でも上演されました。

オペラへの招待 モーツアルト作曲『フィガロの結婚』

10月7日(土)・8日(日)・9日(月・祝)・
14日(土)・15日(日)・16日(月) [中ホール]

阪 哲朗の指揮のもと、見事なアンサンブルを実現

オペラへの招待『フィガロの結婚』は、阪 哲朗が4月に芸術監督に就任して初のオペラ指揮となり、また、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後にマスク着用などの制限なしで行った初のオペラ上演となり、さらにこのシリーズ初の6公演となりました。

びわ湖ホール初登場のベテラン松本重孝が演出を手がけました。シンプルな装置が生き生きした歌手の演技をひきたて、阪が日本センチュリー交響楽団と紡ぎ出す音楽とともに充実した上演を成功させました。

7日、9日、15日の組ではゲストのウィーン・フォルクスオーパーの専属歌手を務めた平野 和がフィガロ役、伯爵に市川敏雅、伯爵夫人に船越亜弥、スザンナに山岸裕梨、マルチェリーナに益田早織などが出演。8日、14日、16日の組は伯爵夫人にゲストのリンツ州立歌劇場の専属歌手を務めた日本を代表する森谷真理、フィガロに内山建人、伯爵に平 欣史、スザンナに熊谷綾乃、ケルビーノには山際きみ佳が出演。

平野、森谷が各組を引っ張り、充実した上演になりました。



第2幕より 左より伯爵夫人、スザンナ、フィ



第4幕より 左よりスザンナ、伯爵夫人、
フィガロ、伯爵、アントニオ(大野光星) (楽日組)



第1幕より(楽日組)



第4幕 幕切れのシーン(初日組)



※Art journeyからネーミングした「えいじやに」では、「文化産業交流会館」とびわ湖芸術文化財団「地域創造部」からのイベント情報を発信します。気軽にArtの旅を楽しんでください。

文産会館の魅力、解体新書!

「湖響」95号では、イベントホールの特徴を詳しく紹介しましたが、今年で35周年を迎える当館にはまだまだお伝えしきれていないトピックがたくさんあります。

今回は、そんな文産会館の魅力をひも解きます。

ポイント1

「小劇場」

特徴 座席数:207席

- ・固定席(203)
- ・親子席有(4)
- ・演者を間近に臨める

当館のホールは2つ。イベントホールと対をなすのが「小劇場」です。小劇場は、イベントホールと対照的。イベントホールの座席数が最大2,074席で可動なのにに対し、小劇場は207席で固定席。ステージと客席が近く、アットホームな雰囲気があります。また、客席後方には親子席もあり、じっとすることが難しかったり、声を我慢できないお子さまも、公演を観られるような作りになっています(親子席の予約はできません)。



今冬注目的小劇場公演

①びわ湖ミュージックフォレスト2023 File4「Brass Quintet 冬麗コンサート」

湖国・滋賀をはじめ、関西一円で活躍する若手奏者による金管五重奏。遠くの音が冷たい空気に伝わってよく聞こえる冬の晴れ晴れと澄み渡った様子“冬麗(ふゆうらら)”のような、金管楽器ならではの澄んだ美しい音色をお贈りします。

日 時	2024年1月13日(土) 14:00開演
出 演	(トランペット)柏原朱、講崎里穂 (ホルン)篠邊千菜 (トロンボーン)西村菜月 (チューバ)澤村隼
料 金	一般1,500円 青少年(24歳以下)500円



②開館35周年記念 藤原道山 尺八コンサート「雙-SO-」

尺八の新たな魅力を拓く藤原道山が米原に登場!滋賀県出身の人間国宝であった初代山本邦山に師事した藤原道山。ソロの演奏から、青山政憲とのピアノデュオまで、尺八の持つ可能性を追求する芳醇な響きをお楽しみください。

日 時	2024年2月23日(金・祝) 14:00開演
出 演	(尺八)藤原道山、(ピアノ)青山政憲
料 金	一般2,000円 青少年(24歳以下)1,000円



①②のチケット情報はこちら→



ポイント3

「文産アート」

①馬/壺 桝本桂子(甲賀市)エントランスホール

作家のことば

モチーフと器とが、どちらも主とも従ともつかないようなサイズ感で融合した形から始まり、モチーフを器のラインでカットし、両者を危ういバランスで共存させています。美術や工芸の愛好家だけでなく、より多くの人々に親しみを持って見もらえる陶磁器という素材で、ユーモアを大切にしながら新しいかたちを生み出しています。



②響器-HIBIKI 田中哲也(野洲市)中庭

作家のことば

「響器-HIBIKI」は音の出る器です。HIBIKIに言葉をかけると反響が聞こえます。HIBIKIの両端で、小さな声で話すこともできます。作品と来場者のコミュニケーションが生まれたらしい。



③テツノネーMingle- 藤原昌樹(大津市)噴水池跡地

作家のことば

鉄とmajimeに遊ぶことで、いつの間にか〈無〉で楽しむ姿が現れ、その「時」の重なりや背景が個性やストーリーを作り上げる。そして、素材のもう質感を大切にしながら〈感じる心〉を育み、ヒトと繋がり、空間と繋がることでカタチが生まれるのだ。向こうに見える景色と一緒に、ありのままの心が表出するような作品になればと思っている。



ポイント2 「びわこ文化センター」

3階にある「びわこ文化センター」は、当館と同じ35年の歴史があり、2年前から当館が運営しています。音楽・ダンス・手芸・園芸・語学など、幅広い分野で約70講座を開講し、年間延べ1万人の受講生が学んでいます。

の中から、次の2つの講座を紹介します。



①中高生のための日本舞踊

当館が主催している小学生対象の「古典芸能キッズワークショップ・日本舞踊」の修了生が、中高生になっても学びたいという声から始まった講座です。今年5月に行われた文化センターの発表会「かがやきフェスタ」では、堂々の踊りを披露しました。それを観て、ファンになったという観客もおられます。今年8月に行われた「長栄座伝承会 むすひ」公演にもこの講座の受講生が出演し、フレッシュな踊りで観客を魅了しました。

花柳風春先生から一言

「古典芸能キッズワークショップ・日本舞踊」の頃から、受講生の成長をみてきました。文化センターでは、受講生が一層高いレベルのものに挑戦する機会を作りたいと思っています。今は、来年5月の発表会に向けて取り組んでいます。



②こどもバレエ

文化センター開設時から続く「こどもバレエ」教室。最初の受講生は40代に入りましたが、今もバレエを続けておられるそうです。現在は、3歳から幼稚園年長までの未就学児、小学校低学年～中学年、小学校高学年～高校生までと、年齢に応じて3つのクラスがあり、米原、長浜、彦根の子どもたちを中心に約30名がレッスンに励んでいます。

林葉子先生から一言

私は35年前はアシスタントとして、現在は独立して「こどもバレエ」の指導を行っています。子どもたちが意欲を持ってバレエを楽しみながら学ぶには、発表の場が必要だと思い、発表会とおさらい会を1年毎に交互に行い、毎年公演を開催しています。



地域創造部情報

令和5年度滋賀県アートコラボレーション事業

おうみ狂言図鑑2024

2024年 新作 ななつどうぐ 七道具 作:小佐田定雄 演出:茂山童司

滋賀・近江を題材にした「おうみ狂言図鑑」シリーズ。今回の新作狂言「七道具」には、近江商人と武藏坊弁慶が登場します。平和になつて失業してしまった弁慶に「三方よし」の精神を教える近江商人。果たして、弁慶はうまく商売ができるのでしょうか!?

そのほか、会場ごとに古典2作品を上演。わかりやすい解説付きで、はじめての狂言鑑賞にもおすすめです。



日時/会場/演目 ①2024年3月3日(日) 14:00開演(13:15開場)
東近江市てんびんの里文化学習センター(東近江市五個荘竜田町583)
古典:文相撲、延命袋 新作:七道具 全席指定

②2024年3月16日(土) 14:00開演(13:15開場)
日野町民会館わめたむきホール虹(蒲生郡日野町松尾1661)
古典:二人袴、真幸 新作:七道具 全席自由

③2024年3月24日(日) 14:00開演(13:15開場)
草津市立草津クリアホール(草津市野路6丁目15-11)
古典:水掛聟、千鳥 新作:七道具 全席自由

出 演 茂山千五郎、茂山あきら、茂山茂、茂山千之丞 ほか
料 金 一般2,500円 24歳以下1,000円 当日券500円増
※未就学児入場不可 好評発売中

お問合せ 077-523-7146((公財)びわ湖芸術文化財団 地域創造部)

滋賀県文化賞・文化奨励賞・次世代文化賞受賞者によるコンサート Celebration2023

「山本 英 フルート・リサイタル」

第38回日本管打楽器コンクールで見事第1位に輝く、湖国出身のフルーティストが長浜・木之本に初登場。ピアノに角野未来を迎えて、受賞記念に贈る意欲的リサイタルをお楽しみください。



日 時 2024年2月23日(金・祝) 14:00開演
会 場 木之本スティックホール(長浜市木之本町木之本1757-6)

出 演 (フルート)山本英 平成30年度滋賀県次世代文化賞受賞
(ピアノ)角野未来

料 金 一般2,000円 18歳以下1,000円 全席自由 好評発売中
※未就学児入場不可 ※前売・当日 同一料金

お問合せ 木之本スティックホール TEL.0749-82-2411
ブレイガイド 木之本スティックホール TEL.0749-82-2411
びわ湖ホールチケットセンター (現金・窓口販売のみ、10:00~19:00)
ローソンチケット、長浜文化芸術会館、浅井文化ホール等

季刊誌 湖国と文化 第186・冬号 特集 紫式部と近江～物語の誕生

『源氏物語』起筆伝説が残る石山寺。物語に憧れる人たちにより様々なモノ語りが今なお降り積もり続けています。縁起絵巻の世界、紫式部と道長、源氏物語と芸能の交差点……紫式部にかかる様々なテーマを、鷺尾龍華・石山寺座主のほか、詩人伊藤比呂美、NHKラジオ第二「古典講読」講師の国文学者・島内景二ら多彩な執筆陣でお届けします。

1月1日発売予定
<販売価格> 660円
<取り扱い> 県内書店、びわ湖ホールシアターショップ、滋賀県立文化産業交流会館など
<お問い合わせ・購入申込> びわ湖芸術文化財団 地域創造部 「湖国と文化」編集室 (077-523-7146)
QR code linking to the magazine's website.



文産トリビア

他にも、知る人ぞ知るこんなスポットもあります。

文産会館 高層棟5階 エレベーターホール・会議室

当館は湖岸から離れているため、1階からは琵琶湖を臨むことはできません。来館者から「伊吹山は見えるけど、琵琶湖は見えないのでですか?」と聞かれことがあります。そんな時、こそっと教えるのがこの場所です。高層棟5階のエレベーターを降りると、そこは当館一の絶景。比良山や琵琶湖が見渡せます。夕方は比良山に沈む夕陽も見ることができます。このフロアには、3つの会議室(6~20名)もあります。一度、お訪ねあれ。

